

白川静のことば
《39》



金子都美絵・画

禾と子に従う。これと同じ構造法をとるものに年・委があり、いずれも稲魂に象る禾を被つて田の舞をする人の形である。季もまた幼少のものが、穀霊に扮して舞うことを意味する字であろう。「史記、孔子弟子列伝」に冉季の字を子産とする。季と産と名字の対待をとるもので季が農耕に関する儀礼を意味する字であることが知られる。

年は禾と人にと従う形で男子、委は女子、季は子供が扮する。のち年・委はそれぞれ農事を意味する語となった。

季はまた伯仲叔季で、末子をいう。詩篇にみえる季女はみな巫女の性格をもち、おそらく家にあつて、巫見として家廟につかえるべきものとされたのである。齊では長姉が巫見として家に残されたことが、「漢書、地理志、下」にみえている。

(新訂『字統』平凡社P147【季】の項より)

